

かなまる・さゆこ
金丸佐佑子さん

かみや・よしえ
神谷禎恵さん

母から娘へ
次世代へ...

食の伝承

文/高橋陽子 写真/池田清太郎

大分県宇佐市にある「生活工房とうがらし」は、昔から地域のお母さんが家庭に伝えてきた料理を作って、食べて、学びあう。そんな場所だ。

主宰者の金丸佐佑子さん(68歳)は高校の家庭科教諭を経て、「学校では伝えきれないことがある」との思いから、今は亡き夫・寿雄さんと共にこの工房を建てた。学びの基となる料理は、教員時代、赴任先で生徒の保護者から学んできた地域の家庭料理。まさに「名もない料理」だ。そういった料理を、佐佑子さんは思いを込めて「伝承料理」と呼ぶ。一品一品に風土や先祖たちの知恵が生きていて、それらの作り方を学ぶことで地域に生きることへの誇りや自信につながる。

工房には、活動を聞きつけた教え子や栄養士らが大勢訪れ、先人の知恵を「交感」してきた。当初、活動10年を機に工房を閉めるつもりだったが、ところが「ぜひ残してほしい」と多くの人々に懇願された。「名もない料理」の伝承活動に、日が当たりはじめた。

「時代が足元を見つめるようになってきた」と話す佐佑子さん。本誌で取材した5年前との違いは、佐佑子さんの傍らに娘の神谷禎恵さん(43歳)が寄り添っていること。母の思いを、3人の子を育てる娘が支える。工房を立ち上げて13年。哲学を貫き、活動の輪がさらに広がりつつある。

